

薬学教育モデル・コア・カリキュラム (令和4年度改訂版)の改訂案について (概要)



文部科学省高等教育局医学教育課



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

薬学系人材養成の在り方に関する検討会

目的

平成18年度からの新制度下における薬学系大学の
人材養成の在り方に関する専門的事項について検
討を行い、必要に応じて報告をとりまとめる。

検討項目

- (1) 薬学教育の質の保証に向けた施策の検討
について
- (2) 薬学教育モデル・コア・カリキュラムの策定について
- (3) その他

開催状況

- 令和3年度
 - ・8月27日 第1回
 - 薬学部教育の質の保証の現状について
 - 今後の進め方について 等
 - ・12月24日 第2回
 - 薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂について
 - 薬学部教育の質保証について 等
- 令和4年度
 - ・8月16日 第3回
 - 薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂について
 - 薬学部教育の質保証について 等
 - ・11月25日 第4回
 - 薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂（案）につ
いて 等

構成員一覧

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 石井 伊都子 | 一般社団法人 日本病院薬剤師会理事 |
| 乾 賢一 | 一般社団法人 日本薬学教育学会理事長 |
| ○井上 圭三 | 帝京大学副学長 |
| 奥田 真弘 | 一般社団法人 日本医療薬学会監事 |
| 北澤 京子 | 京都薬科大学客員教授 |
| 小西 靖彦 | 静岡県立総合病院長 |
| 後藤 直正 | 京都薬科大学前学長 |
| 佐々木 茂貴 | 公益社団法人 日本薬学会会頭 |
| 田尻 泰典 | 公益社団法人 日本薬剤師会副会長 |
| 土屋 浩一郎 | 徳島大学薬学部長 |
| 手代木 功 | 日本製薬工業協会副会長 |
| ◎永井 良三 | 自治医科大学長 |
| 西島 正弘 | 一般社団法人 薬学教育評価機構理事長 |
| 狭間 研至 | 一般社団法人 日本在宅薬学会理事長 |
| 本間 浩 | 一般社団法人 薬学教育協議会代表理事 |
| 柳田 俊彦 | 宮崎大学医学部看護学科長 |
| 山口 育子 | 認定NPO 法人ささえあい医療人権センター
COML 理事長 |

◎座長 ○座長代理
(五十音順・敬称略)

※オブザーバーとして厚生労働省も参加
※令和4年11月25日時点

薬学系人材養成の在り方に関する検討会

「薬学系人材養成の在り方に関する検討会」

(目的)

- 平成18年度からの新制度下における薬学系大学の人材養成の在り方に関する専門的事項について検討を行い、必要に応じて報告をとりまとめる。

(検討事項)

- ① 薬学教育の質の保証に向けた施策の検討について
- ② 薬学教育モデル・コア・カリキュラムの策定について
- ③ その他

「薬学部教育の質保証専門小委員会」

(目的・所掌内容)

- 薬学部教育の質の確保に向け、薬科大学・薬学部に対して書面調査、ヒアリング調査及び実地調査の方法を選択的に活用することによりフォローアップ調査を実施するとともに、当該結果を踏まえた課題や対応案について議論を行う。

「薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会」

(役割)

- ① 薬剤師国家試験出題基準の改正や法制度・名称等の変更に対応した、モデル・コア・カリキュラムの改訂
- ② 学生への教育効果の検証等、モデル・コア・カリキュラムの検証・評価
- ③ モデル・コア・カリキュラムの改訂に必要な調査研究
- ④ モデル・コア・カリキュラムの関係機関への周知徹底、各大学の取組状況の検証等、モデル・コア・カリキュラムの活用に必要な事項
- ⑤ その他モデル・コア・カリキュラムの改訂に必要な事項

薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会

目的

薬学系人材養成の在り方に関する検討会の審議を踏まえ、薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂に関する恒常的な組織を設置する。

検討項目

- (1) 薬剤師国家試験出題基準の改正や法制度・名称等の変更に対応した、モデル・コア・カリキュラムの改訂
- (2) 学生への教育効果の検証等、モデル・コア・カリキュラムの検証・評価
- (3) モデル・コア・カリキュラムの改訂に必要な調査研究
- (4) モデル・コア・カリキュラムの関係機関への周知徹底、各大学の取組状況の検証等、モデル・コア・カリキュラムの活用に必要な事項
- (5) その他モデル・コア・カリキュラムの改訂に必要な事項

開催状況

- 令和3年度
 - ・令和4年2月7日 第1回
 - ・令和4年3月7日 第2回
- 令和4年度
 - ・令和4年5月30日 第3回
 - ・令和4年7月15日 第4回
 - ・令和4年11月14日 第5回

構成員一覧

- | | |
|--------|--------------------------|
| 石井 伊都子 | 一般社団法人 日本病院薬剤師会 理事 |
| 伊藤 智夫 | 特定非営利活動法人 薬学共用試験センター 理事長 |
| ◎井上 圭三 | 帝京大学 副学長 |
| 小澤 孝一郎 | 広島大学 副学長 |
| 角山 香織 | 大阪医科薬科大学薬学部 准教授 |
| 河野 文昭 | 徳島大学大学院医歯薬学研究部 教授 |
| 小佐野 博史 | 帝京大学 名誉教授 |
| 小西 靖彦 | 静岡県立総合病院 院長 |
| 鈴木 匡 | 名古屋市立大学大学院薬学研究科 教授 |
| 高田 早苗 | 一般財団法人日本看護学教育評価機能 代表理事 |
| 高橋 秀依 | 東京理科大学薬学部 教授 |
| 長津 雅則 | 公益社団法人 日本薬剤師会 常務理事 |
| 平井 みどり | 神戸大学 名誉教授 |
| 平田 収正 | 和歌山県立医科大学薬学部 教授 |
| ○本間 浩 | 一般社団法人 薬学教育協議会 代表理事 |
| 矢野 育子 | 神戸大学医学部附属病院 教授 |

◎座長 ○座長代理
(五十音順・敬称略)

※オブザーバーとして厚生労働省も参加
令和4年11月14日時点

薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）（案）の概要

- 各大学が策定する「カリキュラム」のうち、全大学で共通して取り組むべき「コア」の部分
- 学修時間数の7割程度を目安（残り3割程度は、3つのポリシー等に基づき各大学が自主的・自律的に編成）
- 令和4年度は、医療人として共通の価値観を共有すべく、医学・歯学・薬学で同時に改訂

キャッチフレーズ 医学・歯学・薬学 共通

「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」

人口構造の変化、多疾患併存、多死社会、健康格差、増大する医療費、感染症の危機等様々な問題に直面し、これらの社会構造の変化は、年を経るにつれ更なる激化が見込まれている。このように社会に多大な影響を与える出来事を的確に見据え、多様な時代の変化や予測困難な出来事に柔軟に対応し、生涯にわたって活躍し、社会のニーズに応える医療人の養成が必須である。

そのためには、医療者としての根幹となる資質・能力を培い、多職種で複合的な協力をを行い、多様かつ発展する社会の変化の中で活躍することが求められる。また、患者や家族の価値観に配慮する観点や利他的な態度が重要である。更には、ビッグデータや人工知能（AI）を含めた医療分野で扱う情報は質も量も拡大・拡張しており、これらを適切に活用した社会への貢献も求められる。

薬学教育モデル・コア・カリキュラム 改訂の基本方針

1. 大きく変貌する社会で活躍できる薬剤師を想定した教育内容
2. 生涯にわたって目標とする「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を提示した新たなモデル・コア・カリキュラムの展開
3. 各大学の責任あるカリキュラム運用のための自由度の向上
4. 臨床薬学という教育体制の構築
5. 課題の発見と解決を科学的に探究する人材育成の視点
6. 医学・歯学教育のモデル・コア・カリキュラムとの一部共通化

薬剤師に求められる基本的資質・能力

「医師/歯科医師/薬剤師に求められる基本的な資質・能力」を原則共通化

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. プロフェッショナリズム | 6. 情報・科学技術を活かす能力* |
| 2. 総合的に患者・生活者をみる姿勢* | 7. 薬物治療の実践的能力** |
| 3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 | 8. コミュニケーション能力 |
| 4. 科学的探究 | 9. 多職種連携能力 |
| 5. 専門知識に基づいた問題解決能力 | 10. 社会における医療の役割の理解 |

* 青文字は新設 ** 医学/歯学は「7.患者ケアのための診療技能」

薬学教育モデル・コアカリキュラム (平成25年度改訂版)

- 薬剤師として求められる基本的な10の資質
・卒業時に必要とされる資質を記載

(一部新設)

- 病院・薬局における実務実習で修得する目標と大学で実務実習前後に修得する目標を区別
- 近年の薬剤師の役割と業務の変化に十分に対応できていない
(例)
 - ・感染症とその治療薬、微生物学が中心
 - ・解剖・生理学に係る記載が少ない
 - ・情報・科学技術の活用に係る記載が少ない
 - ・課題の発見と解決を科学的に探求する人材育成が十分でない
- 学修成果基盤型教育に係る記載が不十分
 - ・「基本的な資質」を身に付けるための一般目標(GIO)を設定し、GIOを達成するための詳細な到達目標SBOs(1073項目)を記載
 - ・SBOsが細部にわたって記載されており、大学独自の内容をカリキュラムに取り入れる余裕がない

薬学教育モデル・コア・カリキュラム (案) (令和4年度改訂版)

- 薬剤師として求められる基本的な10の資質・能力の改訂
 - ・生涯にわたって研鑽していくことが求められる資質・能力
 - ⇒2つ資質・能力を追加し、従来の「薬剤師としての心構え」と「患者・生活者本位の視点」を「プロフェッショナリズム」として発展
<新たに追加した資質・能力>
 - ・総合的に患者・生活者を見る姿勢
 - ・情報・科学技術を活かす能力
- 大きく変貌する社会で活躍できる薬剤師を想定した教育
 - ・超高齢社会、情報科学技術の進展等に対応するとともに、大学と医療現場がより一層連携して教育を行うため、以下の観点から学修目標を整理
 - ・薬物治療を個別最適化する能力の向上 (社会的背景等を把握し、全人的に捉える)
 - ・多職種連携能力の向上
 - ・医療マネジメント(医療安全等)への貢献
 - ・地域医療・疾病予防への貢献
 - ・感染症の予防・まん延防止に係る内容の充実
 - ・保健統計・疫学的解析の充実
 - ・解剖・生理学に係る記述の明確化
 - ・情報・科学技術を活用する能力 (情報等に関する倫理とルール、医療等への活用)
 - ・研究活動の実践による課題発見・解決能力の向上
- 学修成果基盤型教育の更なる展開
 - ・具体的事実を覚えるだけでなく、新たに直面する課題や問題の解決に生かす学力を身に付ける観点から学修目標(約350項目)を整理
 - ・「学修目標」に到達するために必要と考えられる知識や行為等について参考となる事項を「学修事項」として列記

